

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

「不毛な悲しい現場です」

～沖縄週間／沖縄の旅に参加して学ぶこと～

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

1995年以来毎年6月に続けられている「沖縄週間／沖縄の旅」が、今年も6月17日から20日まで「命どう宝～基地・経済・いのち～」というテーマのもと、50名余の参加者で開催されました。その詳しい報告は後日に出されると思いますが、私がお気づき、学ばされたことをお伝えし、分かち合いたいと思います。なぜなら、これを多くの人に伝えて欲しいと、語られた方々が異口同音に言われたからであり、それに応えたいと思ったからです。

高江のヘリパット建設中止運動の現場に行ってきました。沖縄本島北部のやんばる(山原)にある高江地区は豊かな森に囲まれたところ。そこにすでにあるものの他にさらにヘリパット(ヘリコプター離着陸帯)6個を作るといいます。爆音や墜落の危険にさらされているところに、さらに、ということです。豊かな自然を守りたい、平和に静かに暮らしたいという自然な思いから、非暴力での反対運動・座り込みが続けられています。

そこで生活しているひとりの主婦の話をお聞きしました。その人がしみじみと語られたことが私の心に届きました。「この現場には誰も権限のある人がいない。私たちも、防衛施設庁の方々も、工事の請負い業者の方々も。そして、その人たち同士が、工事の実施、反対・阻止と向かいあっている。権限は政治にある。ひとりひとりが声を出し、政治を変えて欲しい」と。「ここは不毛な、悲しい現場なのです」と。

辺野古に行ってきました。名護市の東海岸にある米軍基地建設問題に揺れているところ。10年を超える辺野古での基地建設阻止活動を非暴力で続けています。たくさんのお話を聞きましたが、今、一番伝えたいことはとの質問に、こう答えられました。米軍への思いやり予算を東日本大震災の被災者のために使うように訴えたい、と。今年の思いやり予算(防衛省予算に計上されている在日米軍駐留経費負担の通称)の約1900億円を、まず確保したという政府。震災で費用が足りなくなるといふのに。そしてその不足を国民の負担でまかなうと考える政府

□会議・プログラム等予定

(6月25日以降および
前回報告以降追加)

6月

- 9日(木) ～11日(土) 「いっしょに歩こう」プロジェクト運営委員会(仙台)
- 13日(月) 正義と平和・憲法プロジェクト
- 28日(火) 主事会議
- 30日(木) 教区間協働デスク

7月

- 1日(金) 「いっしょに歩こう」プロジェクト運営委員会(仙台)
- 3日(日) 青年委員会(中部教区センター)
- 6日(水) 58-7 常議員会
- 7日(木) 財政主査会
- 8日(金) ～9日(土) 正義と平和・ジェンダープロジェクト(京都)
- 13日(水) 第197(臨時) 主教会
- 14日(木) 文書保管委員会
- 14日(木) 第3回東日本大震災各教区対策本部担当者の会(仙台)
- 18日(月) ～19日(火) 宣教協議会実行委員会
- 19日(火) 正義と平和委員会(大阪)
- 20日(水) 年金維持資金管理委員会
- 28日(木) 主事会議

8月

- 24日(水) 正義と平和・沖縄プロジェクト(沖縄)
- 29日(月) ～30日(火) 各教区人権担当国会議(仙台)

9月

- 14日(水) 58-8 常議員会
- <関係諸団体会議等>
- 7月8日(金) 日本キリスト教連合会定例会(ルーテル東京教会)
- 8月24日(水) ～26日(金) 聖公会関係学校教職員研修会(立教女学院)
- 24日(水) ～9月3日(土) 全聖公会総主事会議(メキシコシティ)
- 8月26日(金) NCC 常任常議員会

は一体何か、と。

「ONE SHOT ONE KILL」という映画を見て、その監督の話を聞きました。アメリカの海兵隊の新兵の訓練を撮ったものです。貧しさゆえに大学に行く費用がない。その費用を得るために数年間海兵隊に入る。自分のその目的があったにもかかわらず、12週間の訓練の期間で洗脳されていき、最後には海兵隊員の任務につく誇りを持っていくというドキュメンタリーです。「入隊する前はみんな普通の若者だった。入隊した後は上官の命令には一切疑問を持たない殺人兵器に仕立て上げられる。」監督は言われた。「人は人を殺すようには出来ていない。だとすれば、どのようにすれば普通の若者が戦争で人を殺すことが出来るようになるのか。」それをこの映画は教えてくれている。「軍隊は一方通行。一般人を軍人に育てる道はあるが、退役した人を一般人に戻す道は用意していない」と指摘された。私は憲法9条第2項をすぐに思い浮かべた。「国の交戦権は、これを認めない。」交戦権とは、戦争で人を殺しても罪に定められないというもの。日本はそれを認めないという平和憲法を持っているのです。

李在禎(イ・ジェジョン) 司祭の講演を聞きました。「東アジアの平和と沖縄に対する思い」と題

された講演です。その中のひとつに、「怒りはある感情から出てくるのではなく、『参加の意志』から生まれる」ということを学びました。「我々がこの世界で、この社会のために実践しなければならない課題、責任、使命を探し求めるとき、解決の道が開かれるのではありませんか?」「創造なしに平和は得られず、抵抗なしに平和は守られません。」「平和は戦いのない状態ではなく、正義が生きている世界です。」と力強く語られました。

イエス様を信じ、イエス様に倣い、生きようとする私たちの視点をどこに持つか、どこに置くべきか、ということは大切なことです。そしてそれは「いのち」でしょう。いのちの尊厳を守ることです。いのちの尊厳とは何かといえば、いのちを目的のための手段に用いないということです。

日本にもそのことを学ぶことが出来る歴史の事実がいくつもあります。例えば、6月23日の沖縄慰霊の日、8月6日の広島への原爆投下、8月9日の長崎への原爆投下、8月15日の戦争が終わった日、これらの日に一人ひとりのいのちの尊厳を再確認し、平和を実現する者(マタイ5:9)となっていきたいものです。そして正義が生きている世界の構築へと歩み続けたいものです。

□常議員会

第58回(定期)総会后第6回 6月13日(月)
主な議事

1. 総主事出張の件

以下の海外出張を承認

- ・ 目的：総主事会議
- ・ 期間：2011年8月24日(水)～9月3日(土)
- ・ 場所：メキシコシティ

2. 日本聖書協会への理事派遣の件

日本聖書協会より、新法人移行のため、継続して河野裕道司祭を理事として派遣してほしいとの要請があり、承認

3. 東日本大震災被災者支援「いっしょに歩こ

う!プロジェクト」に関する件

「いっしょに歩こう!プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援～について、下記のように実施することを承認

記

「いっしょに歩こう!プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援～

- 1) 期間：2011年6月から2年間(延長が必要な場合は、常議員会において決定する)
- 2) 運営委員：首座主教 植松 誠(本部長)、主教 加藤博道(現地本部長)、司祭 中村 淳(事務局長)、司祭 相澤牧人、池住 圭、司祭 大町信也、司祭 笹

森田鶴、主教 中村 豊、司祭 野村 潔、
司祭 長谷川清純、村井恵子

(但し、必要に応じて増員する)

- 3) 目的：別紙「日本聖公会東日本大震災被災者支援活動方針（ミッションステートメント）」に基づき、プロジェクトの運営全般を行う。

- 4) 役割：運営委員会に下記のような担当者をおく

(1) 人事担当：主教 加藤博道（現地本部長）、司祭 中村 淳（事務局長）

(2) 財務担当：司祭 相澤牧人、司祭 野村 潔

- 5) 運営細則

(1) 物品購入取扱い規程：別紙規程に基づき、物品の購入を行う。

(2) 現金・預金・クレジットカード取扱基準：別紙基準に基づき、現金・預金の取扱を行う。

- 6) 予算

運営委員会で協議し、常議員会の承認を得ることとする。

ただし、事務所開設より今日までに執行されたものについては、緊急の中での行為として認め、追認することとする。

次回以降の常議員会

7月6日(水)、9月14日(水)

□各教区

東京

- ・第116(臨時)教区会 7月23日(土) 9時
聖アンデレ主教座聖堂・聖アンデレホール
議題：聖公会八王子幼稚園の学校法人化に関する件

神戸

- ・広島礼拝2011『ともに学び、行動し、祈ろう。そして一歩前へ』—平和を実現する人々は、幸いである。／その人たちは神の子と呼ばれる(マタイ5:9) 8月5日～6日 広島復活教会 被爆証言、祈りの集い、平和行進、平和祈願ミサ、(希望者) 碑めぐり、原爆資料館見学

□訂正

『2011年度教会暦・日課表』p.43 聖書日課・詩編第1年 9/20 夕の礼拝第1日課 (誤) ユディ 58:9-17, → 正) ユディ 8:9-17,
以上訂正してお詫び申し上げます。



† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 クリストファー・小林正男(北関東教区・退職) 2011年6月2日(木) 逝去(76歳)

《人 事》

横浜

司祭 ケヴィン・マッディ 2011年4月30日付 横浜クライストチャーチ牧師及び横浜山手聖公会協働司祭の任を解く。(帰英)

司祭 イグナシオ入江 修 2011年4月30日付 横浜クライストチャーチ協働司祭の任を解く。
2011年5月1日付 横浜クライストチャーチ管理牧師に任命する。

東京

＜信徒奉事者認可および分餐奉仕許可＞2011年4月1日～2012年3月31日

(東京聖三一教会) 後藤 寛

東北教区 東日本大震災 三ヶ月記念聖餐式

～これまでと、これから～

山形聖ペテロ教会牧師 司祭 ステパノ 涌井康福

2011年6月11日は、東北教区宣教開始120年を祝う記念礼拝が行われる予定でした。3月11日までは、この120年の間に、教会も日本の社会もおそらく経験したことがないであろう大災害に、しばらくの間は何をなすべきかもつかめないまま、暗中模索の日々が続きました。刻々と入ってくる各地の被害状況、そして錯綜する情報に振り回される中で入ってきた磯山聖ヨハネ教会の被災情報「死亡者1名、行方不明者2名、ほとんどの信者宅流失、礼拝堂損壊」は、しばらく現実として受け止めることができませんでした。

そんな状況の中で、皆の頭の中からは記念礼拝のことは消え去りかけていましたが、奇しくも震災よりちょうど3ヶ月目にあたる6月11日に、教会関係およびすべての逝去者、困難の中にある方々を覚えて礼拝を行おうという提案が、加藤教区主教からなされました。当初は磯山と同県にあり、交通の要所でもある郡山で行うことが考えられましたが、礼拝堂の被害は軽微なもの、ホール、牧師館は使用不能状態であり、放射能という目に見えぬ厄介な伏兵が、実行を困難とさせてしまいま

した。仙台とて無傷ではなく、損傷が認められる聖堂を、安全のため使用しないという判断をしていました。震災以来、仙台基督教会では教区会館を仮の礼拝堂として使用しています。復活祭では工夫して150席近くを整えましたが、今回も同程度の参列者を想定して準備が進められました。当日は出席名簿によりますと、174名の参列者があり、一部の方にはご不自由をおかけしてしまいました。

礼拝でのメッセージは、120周年記念礼拝でお願いし、スケジュールに入れていただいていた首座主教・北海道教区主教植松誠師父にお願いいたしました。礼拝前に「120年記念礼拝での務めだったらどんなに気が楽だったことか」ともらされていましたが、その苦悩はメッセージの中か



からも伝わってきました。その中で植松主教は礼拝や行事はなくなっても、東北教区が宣教開始120年であることに変わりはない。それどころかこの120年に際し、この教区は特別な出発をしなければならないのではないかと問いかけられました。それは主よ、なぜですかと問いながらも、「ただ上よりの力を信じて瓦礫を取り除いていく……。そのことを求められているように思います。」と植松主教は語られました。人の思いから見れば、こんなことが何になるのかと思うことがこれからたくさんあるだろう。しかしそれらのすべてがみ心の中にあることを信じ、前に進み

なさいと言われたような気がしました。

礼拝終了後、大震災発生時刻の2時46分に1分間の黙祷をささげました。その後これからの日本聖公会の取り組みと、それにかかわる「いっしょに歩こうプロジェクト」のスタッフが紹介されました。これからも私たちが、すべての人といっしょに歩くことができるよう、祈り、支えていただきたいと願っています。



聖公会神学校校長協議会に参加して

ウイリアムス神学館館長
司祭 ヨハネ 吉田 雅人

5月12日(木)～18日(水)まで、英国カンタベリー大聖堂構内の国際研究センターで、聖公会神学校校長協議会(Anglican Communion Theological College Principals consultation)が開催され、管区のご支援もいただいてこれに参加しました。

この協議会はアングリカン・コミュニオン(英国聖公会)の神学教育部門(TEAC)の主催で行われた初の会合で、以下のような目的で開催されました。

- ・ 経験を分かち合う。
- ・ 相互の支援を申し出る。
- ・ 神学教育カリキュラムについて情報入力と討議の機会を提供する。
- ・ 神学教育における例えば霊性と個人的形成 personal formation のような討議する課題を探ること。
- ・ 教区、主教たちや管区との関係における神学校の役割を討議する。
- ・ リンク、交換などを促進するためのアングリカン・コミュニオンを縦断する神学校の継続的ネットワークを開発する。
- ・ アングリカン・コミュニオンの立ち上げ、この

不可欠な部分として神学教育の重要性を強調することを分かち合う。

そしてこの協議会開催の理由の一つに「例えば日本のように、たった一つしか神学校がないなら、校長間で相互に支援するための機会が地域的にないから」ということが挙げられていて、これに関しては、西原廉太司祭を通して日本聖公会には二つの神学校があることをTEACに知らせていただきました。

さて、協議会には27カ国から31人の校長が出席しました。内訳はアジアから6校、オセアニアから4校、アフリカから11校、アメリカ大陸から6校、英国・アイルランドから4校でした。

実質的な協議会は13日(金)から始まり、毎日のプログラムはカンタベリー大聖堂で行われる朝の礼拝・聖餐式・夕の礼拝を中心に、聖書研究、講演、小グループによるディスカッションという形で進められました。

聖書研究はマタイ福音書の「山上の説教」「からし種のたとえ」「律法の要約(最も重要な二つの掟)」「宣教命令」などが取り上げられ、リボン・カレッジ(英/カズドン)のヘレン・アン・ハー

トリー師(新約学) やクレア・アモス氏(TEAC)などがファシリテーターとして発題した後、5～6人の小グループで分かち合いが持たれました。グループは自由に作られましたが、私のグループはパプア・ニューギニア、ソロモン諸島、ミャンマー、リベリアの校長先生たちと一緒に、和やかに話し合われました。

講演はカンタベリー大主教(2回予定されていましたが、都合で1回に変更されました)をはじめ、数人の招待講演者の興味深い発題がなされました。カンタベリー大主教の講演は「我々がどこから出発し、今どこにいるのか」を問う刺激的なものでしたし、招待講演者ジェレミー・ワーセン師の「知解を求める信仰」という題の、聖アンセルムの神学に基づいた講演も、今後の神学校教育を考えさせる、私にとって興味深いものでした。また旧知のクリストファー・アーヴィン司祭(IALCのメンバーで現在はカンタベリー大聖堂のキャノン)の礼拝の視点からの講演も、とても共感できるものでした。特に最初の二つの講演については、7月に発行予定の本館の紀要『ヴィア・メディア』に翻訳を掲載する予定ですので、ご期待ください。

小グループの協議と全体会での分かち合いの最も大きなテーマは、「アングリカニズムとは何か、それをどのように神学教育の中で伝えるか」ということだったと思います。ことさらに中心的な話題にはなりませんでしたが、現在のアングリカン・コミュニオン課題でもある「アングリカン・カヴァナント」とも関連するテーマでもありますから、とても大きな、重いテーマです。短い時間なので結論が出たわけでもありませんが、今後の神学教育における課題でありましょう。

最終セッションでは、この協議会の成果を全聖公会で分かち合うためのコミュニケが作成さ

れました。最終案は後日メールで送られてきましたが、アングリカン・コミュニオンのホームページにも掲載されています。以下に要点だけ報告したいと思います。

最初のアングリカン・コミュニオン神学校校長国際協議会が、27カ国から代表を集めて、カンタベリーで開催された。…我々は、確かな神学教育が変容する力を持ち、聖公会のアイデンティティに関するグローバルな理解を促進できると信じている。我々の協議会は、エキュメニカルな約束の種々のモデルに探求されることを可能にすると同様に、…神の国の建てあげを可能にする、活動的で明瞭なキ



カンタベリー大主教を囲んで 2011.5.13

リスト者の弟子性を育成することに我々のミーティングを通して分かち合われた約束を確認した。

…(以下、中略)…

協議会が終わりに近づいたとき、我々は前進するための多くの実務的な提案について、共に我々の考えと希望を集めた。これらは以下を含んでいる:

1. 神学校に関するデータベースを完成し、公表する。
2. 聖公会の神学大学と神学校の Network / ネットワーク / 協会 Association を設立する。

3. 地域ネットワークの発展を支援する。
4. 全聖公会の縦断的な神学生と教員の交換のためのメカニズム—ソーシャル・ネットワークングや、それに類似した—メカニズムの確立。
5. そのような交換を容易にするために基金の設立。
6. 神学校の校長と、主教や首座主教との間の会話と対話を促進する。
7. 真剣に、神学コースの認可を助ける様々な可能性を探る。
8. それらのウェブサイト上に聖公会研究のための「関心グループ」があることができるかどうかに関係なく、GlobTheoLib (Global Digital Library in Theology and Ecumenism, WCC の組織) と共に探る。
9. 聖公会研究の教育 (理想的にはオンラインでこれらを利用可能にする) に関する機関からの概要の調査と収集。
10. コミュニオンの言語の中でアングリカニズムに関するリソースを提供 (可能なところならどこでもオンラインで) することを努める。
11. 3年の間に、校長 / デイーンのための更なる集会を開催する。
12. 聖公会代祷表の中に神学校を含める。

… (以下、中略) …

我々の管区に戻る時に、我々は我々の大主教と主教たち、また適切な管区機構にこの協議会の意義と結果を分かち合うことを約束する。何年も前にTEACのために書かれた以下の祈りの言葉は、我々の神学教育の仕事に対する我々のコミットを確言する。

最後に印象に残ったことをいくつか挙げて、この報告を終わりたいと思います。

12日の夜に真っ暗な大聖堂内で行われた「ローソク巡礼」(聖トマス・ベケットの跡を辿る) では、最後の場所で各自が自分の母国語で祈りを献げることができました。また、17日の地下聖堂で行われた早朝聖餐式では、聖杯分餐奉仕をさせていただき、感謝でした。

また最終日の前夜、スリランカのジェローム校長の提案で、アジアの神学校長 (スリランカ・ミャンマー・香港・フィリッピン・韓国・日本) 6人が集まり、夕食を共にしながら、アジア地域の集まりができるといいね、という話し合いが行われ、さしあたっては共に祈りあうために、フィリピンのパトリック校長が代祷表を作ることになりました。

多くの学びを得ることができましたし、参加させていただく機会が与えられ、本当に感謝でした。



2011.5.13

東日本大震災支援

「いっしょに歩こう！プロジェクト」 仙台オフィスから ②

事務局長 司祭 パウロ 中村 淳

始めに「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動内容が見えない、わからない、というご指摘に対してお詫びいたします。わたしたちの仙台オフィスは現在、プロジェクトの立ち上げと支援活動双方を同時に行っています。それは支援活動そのものがこのプロジェクトの骨格であるということと、その働きの中から継続的な顔の見える関係が見出せる、と考えているからです。そのため多くの時間を活動そのものに注いでいます。



シンボルマークは5色をそろえました。基本は緑ですが他の色も使うことができます。このマークを使った活動が日本中、世界中で広がることを夢見ています。この大震災での被災者の方々は日本全国におられることと思います。ことに福島県からはたくさんの方が各地に避難されている、との情報があります。多くの教区、教会でそれらの方々への支援が始まっている、とのお話も聞いています。それらの活動もこのマークのもとでプロジェクトに参加していることを表していただければ、と思っています。マークの使用方法は今検討中ですので、改めてお知らせしたいと思っています。

仙台での最大の懸案事項であったボランティアの宿泊受け入れについてもやっと進展することができました。東北教区がお持ちの青葉静修館を改修の上、利用する見通しが立ちました。そ

この結果、皆さんにお知らせする、という大切な任務がおろそかになっていました。とても多くの皆さんにやきもきさせているであろうことを心に留めて今後の広報体制を早急に確立したいと思っています。申し訳ございません。

仙台オフィスでは先週やっと固定電話が開通しました。ここ仙台では電話工事の需要が殺到しており、申し込みから3週間かかってようやく開通しました。インターネット環境も申し込んでありますが、開通はまだ先のことになりそうです。仙台オフィスの電話番号は022-265-5221です。

また、プロジェクトのロゴマークとシンボルマークができました。これは中部教区の若きデザイナーが作ってくださったものです。

の工事が始まりました。現在、利用のための準備をあわせて行っています。詳細決定までもう少しお待ちください。

仙台での支援は7～8箇所の仮設住宅、避難所、施設の拠点で行っています。いずれも顔と顔の見える関係作りから始まっています。これは息の長い支援活動とするためです。今は仙台常駐スタッフがその関係作りにかんばっています。その中から様々なプログラムが生まれてくるものと考えています。そして多くの方々に東北に来ていただいて、そのプログラムに参加していただきたい、との希望も持っています。

わたしたちの活動は始まったばかりです。被災地では撤退する活動も多く出てきています。わたしたちの出番はこれからです。どうか長い目でこのプロジェクトにご注目ください。